

老朽原発 うごかすな! ニュース

第154号

発行・老朽原発うごかすな!
実行委員会[連絡先]
090-1965-7102

11月17日早朝、MOX燃料、フランスからの搬入に抗議する!

「毒を食らわば皿まで」も・・・ 活断層の巣の若狭湾で大地震、津波が重なれば?

高島市内で前泊された関西の方々は、薄暗い中で、すでに



夜明け・音海の海岸で抗議

に入港していた船に向かって抗議のコールをされていた。地元・高浜町の東山氏をはじめ、いつも率先して諸行動に参加している県内のメンバーが7名、午前10時から小浜での「聞く会」で話をしていた。吉田千亜さんも加わってくださいました。(「会」には、40名参加。)

対岸と高浜原発裏門前で、私自身は以下のようなスピーチをしました。

1990年代に高浜へMOX燃料、プルサーマルが押しつけられ、強行突破されたとき、●その賛否両論の討論会が実施されたこと、●「住民投票を実現する会」の強力な

運動が無視されたこと、●当時の通産省からプルサーマル強行のために副町長が送り込まれたこと、●プルサーマル容認と引き換えに60億円の交付金が振る舞われたことなど。

最後の交付金のばらまきのお決まりの手法は、その後も拍車がかかり、老朽原発の再稼働容認に50億円、直近の乾式貯蔵施設受け入れを条件に今年度207億円、当面の年度ごとに50億円の「地域振興」のための交付金が約束



訴える中島哲演さん

されています。(新潟県では、柏崎刈羽原発の再稼働と引き換えに1000億円も。)いまや「毒を食らわば皿までも」の惨状を呈しているのではないのでしょうか。

一方、老朽炉の運転、プルサーマルの強行だけでも、事故のリスクは高まります。そ

の上、活断層の巣の若狭湾で、大地震・津波が重なれば・・・東側の山の尾根から、まぶしく、あたたかい朝日が昇るのを見つめながら、太陽などの自然・再生エネルギーへの全面転換を、というK氏の訴えがことさらに感動的でした。(明通寺 中島哲演)

日の出が輝く下で MOX燃料の搬入に抗議する!

11月17日(月)は、MOX燃料搬入阻止の高浜現地行動に参加しました。夜中の2時過ぎに自宅を出発。途中のトイレ休憩では満天の星空を楽しみながら高浜へ。中でも1番目立った星座はオリオ

ン座で、昼間はまだ暑い時もあるのに、夜空はもうすっかり冬の星座でした。

未明に音海の港の先端に着。暗闇の向こうに見える高浜原発3、4号機がMOX燃料が使われる原発だとい

MOX燃料とは

MOX燃料とは、混合酸化物燃料の略称であり、原子炉の使用済み核燃料中に1%程度含まれるプルトニウムを再処理により取り出し、二酸化プルトニウムと二酸化ウランとを混ぜてプルトニウム濃度を高めた核燃料である。プルトニウム濃度を4~9%とした上で、既存の軽水炉用燃料と同一の形状に加工し、適切な核設計を行ったうえで適切な位置に配置することにより、軽水炉のウラン燃料の代替えとして用いることができる。これをプルサーマル利用と呼ぶ。

(Wikipediaより)



高浜原発3, 4号機を望む

となのですが、見ると、その前の海にすでにMOX燃料をフランスから運んできた貨物船がオレンジ色の灯りを点けたまま停泊しています。私は今回が初参加でしたが、2022年のMOX燃料搬入阻止闘争の時は運搬船が入港するのを反対運動をする人たちが待ち構えて抗議したという事とでした。今回はそういう事態を避けるために、真夜中の4時半にこっそりと入港したようです。ですが、今回も5・5メートルの旗竿に翻る反原発の赤旗とともに、大きな長い横断幕を広げたので、向こう岸にいる貨物船や関電関係者にもMOX燃料搬入阻止の意思をしつかりと示すことができましたと思います。

薄暗い埠頭でプルサーマル

高浜原発へのMOX燃料搬入に抗議する 現地行動に参加して

高浜原発へのMOX燃料搬入に抗議する現地行動の呼びかけに応じて、滋賀・近江八幡から参加しました。原発関連の集会や講演会をのぞいて原発施設への抗議行動は数十年ぶりです。

早朝の6時前には高浜原発が立地する対岸の音海町の公園に到着しました。すでにMOX燃料を積んだ輸送船は入港・接岸している

運転の危険性や関電の嘘を追及する地元の福井の皆さんの発言が続いた後、「朝日が昇るまでシユプレヒコールをやりましょう」とのKさんのリードでしばらくの間コールを続けます。オレンジ色の陽光が辺りを照らし出す日の出は輝かしく、「待ってるとなかなか日が昇らないな」と言っていた参加者たちも見とれています。やがて太陽が完全に姿を現すと一挙に見慣れた朝の風景に一変し、Kさんの

エネルギーのほんの一部だけで私たちは十分に暮らしている。というまとめの言葉が実感できました。

そのあと音海の展望台に戻り、隊列を整えて高浜原発前までデモをしました。参加者全員にマイクを回しますということ、ゲート前で全員が発言をして朝の9時半には抗議行動を終えました。30名近い参加者がありました。

(AWC 永谷ゆき子)



巨大な横断幕が朝日に映える

でデモ行進。大きな声で怒りのシユプレヒコールを繰り返す。いつもは近江八幡でのデモに参加しているのですが「警備」の警察官は5人ほど。ここでは私達の隊列をはるかに上回る警察官がデモや北門での行動に配置されていました。本当に関電をはじめとする独占資本は私たちをおそれているのだと実感しました。ゲート前では参加者ひとりひとりが原発の危険性を訴えました。「普通」にちゃんと私達の訴えを聴いていれば警察官や原発内で作業する方たちもさっと私たちに合流し共に声をあげてくれるはず。「能面」のような彼、彼女らの顔を見ていると、まだまだ私達の訴



音海の展望台から高浜原発へデモ

えが届いていないのかな、と歯がゆい気持ちになりました。

そんな中でいつもくちずさむ唄があります。それは、京都在住のフォークシンガー、古川豪さんの「原発に未来なし」です。唄の中で繰り返されるフレーズが「原子力発電この地に許すな、原子力発電運転を中止せよ」です。そして、K先生の講演での言葉「原発は現在科学で制御できない、人類の手に負えない」ここに確信をもって滋賀・近江八幡でこれからも脱原発の声をあげ続けていきたいです。

(近江八幡市 布施 進)